

RITA

利他の心で

教育を変える

仕事がおもしろくなる

vol.
17

フィロソフィで 学校を経営する試み

利他のDNAを
世界へ、
そして未来へ

R
RITSUMEIKAN

リ
ボ
RITA
LABO

稲盛和夫

「君の思いは必ず実現する」

京都市立桃山中学校での講演より抜粋



心をきれいにし、一生懸命努力すれば、思いは実現する

学校では、頭を使って勉強しなさいとよく言われますが、「心をきれいにしていきたいと思います」「心を整えましょう」とは、なかなか教わりません。これは、他人から言われるようなことではありません。自分自身で、きれいな美しい心になる努力をしていくべきなのです。それがその人の人柄をつくっていきます。皆さんは今後、中学校を卒業され、次の上級の学校に行かれて、やがて社会に出られますが、社会に出たとき、人柄というものは大変大事です。仲間から「あいつはあの人はいい人だ」と思われるのか、「あいつはけしからん」「あいつはえげつない」と思われるのか。社会に出ていくまでの間に、自分は、心の中に描いた通りの人柄になっていくということを、今日は皆さんに申し上げておきます。

心がつ力は大きいということを肝に銘じていただき、自分の心に、美しい思いを常に思い描いていただければと思います。いい人柄というのは、利他の心です。優しい思いやりの心が、常に出てくるようにする、えげつない自分だけなければいいという利己の心ではなく、他を慈しみ愛する、美しい利他の心を常に描いていきさえすれば、人柄は立派になっていきます。

いい思いを心に描いて、いい人柄になっていく。同時に、素晴らしい思いを描いて、達成するために一生懸命努力すれば、その思いは必ず完成します。今は小さなお店だけ立派な会社していきたいと、強く思っただけに努力をしていく。その思いを実現するために、ひたむきに、一生懸命に努力をしていけば、必ず成功します。皆さんには、心というものを大事にし、立派な人生を送っていただきたいと思っています。

(提供：京セラ株式会社 稲盛ライブラリー)

稲盛和夫名誉センター長の逝去を悼む

稲盛経営哲学研究センター副センター長(教育部門) 倉石寛

私たちが、京セラの稲盛名誉会長に経営哲学の研究と教育再生への支援のお願いに伺ったのは8年前のことでした。それは世にある財政支援のお願いというのではありませんでした。教育に限らず、社会全体が人はいどこへ向かったらいいのか、迷っているさなか、人は何のために生き働くのか、それを企業という働く現場から、正面切つて問うているのが稲盛氏だったからです。学校教育が社会に「公」から離れ、「私化」しつつあるとき、大切なのはあれこれの方法やら効率ではなく、哲学を持つことの大切さであると、私たちは気づかされました。とりわけ、稲盛氏の説く「利他の哲学」は、人が人として今日まで至ったそのあり方であることを人類学始め多くの学が示すに至っています。

立命館大学稲盛経営哲学研究センターの名誉センター長に就任された稲盛氏のもと、教育部門の研究と実践を担った私たちは、冊子『RITTA』を発行して教員はもちろん盛和塾生の企業や地域で人を育てることに心を砕いている人々のネットワークを広げつつ、昨年度には高等学校教科書『公共』の発刊まで進みました。稲盛さんは私たちが報告に行くと、いつも一字一句をペンで追いつながら読んでくださいました。最後にお会いしたのは出来上がった教科書を持って上がったときでした。手にとって「教科書ですか」といわれたとき、なぜか非常にうれしくなりました。稲盛さんが自らの体験から産み出した「利他の哲学」は、いま、人と人をゆるやかにしかし確かにつないでいっています。稲盛名誉センター長、お聞きしたいことはまだいっぱいあったのですが、さようならば突然やってきました。しかし、「利他の哲学」は私たちの記憶のなかに生き続けます。そうやって人間は長い道をここまで来たのだということを感じています。



フィロソフィを作り 学校を経営する試み

立命館附属校5校有志教員の研究会

研究会開催の始まり

金井 「フィロソフィを作り、学校を経営する」試みとなった立命館附属校有志教員による「新しい時代の学校経営研究会」は、どのように始まったのでしょうか？

小笹 「ここ数年、時代が大きく変わって、学校現場も昔のやり方ではこの先うまくいくとは思えません。中堅教員も学校の経営については分かっていないことも多いので、これまでの既定路線にとられず、稲盛和夫氏からいろいろな発想を学ばせてもらう」という考えのもとで研究会(勉強会)を進めました。

川崎 稲盛氏の京セラ創業、異分野のKDDIの立ち上げ、経営破綻したJALの再生などを成功させてきた手腕の中に、「我々教員が学ばべき何かがある」と考えて始めました。

金井 教育が大きく変わる時代というこ

フィロソフィ作りまでに至った原動力とは？

金井 稲盛哲学を学ぶところから始まり、3年をかけて5校の附属校すべてでフィロソフィを作るところまで到達されました。その原動力となるものは何だったのでしょうか？

小笹 学校内での多忙な日々の中ではフィロソフィを考える余裕などありません。各校の熱意ある先生が校外で集まり、月1回2時間、集中した議論をする中で、自身の行動を振り返り、それに対して他の先生から意見をもらうという深い学びの場となったことが先生方のモチベーションを高めたと思います。

1年目に高津先生[※]、2年目に京セラの「稲盛ライブラリー」の方々に深いインプットをしていただいたことも大変重要でした。それによって「稲盛哲学とはどういうものなのか」という共通理解、そして「自分たちにもフィロソフィが必要ではないか」と

いう共通認識ができ、自分たちが教育活動で大切にしたいことをフィロソフィとして言語化することが出来ました。互いに議論し深く学び合う場があったからこそ、ぶれない考え方の軸と、それでいて現場に寄り添った学校のフィロソフィが作れたんじゃないかなと思います。

金井 小笹先生が声をかけて集まった熱意ある有志教員が、学校を経営する軸となるフィロソフィを作る必要性を共通認識し、月1回語り合うことのできる場を持てたことが、原動力だったということですよ。

小笹 確かに最初は私が声をかけたメンバーだったのですが、だんだんと増えていったんです。それは初期のメンバーが、2年目にそれぞれ「渦の中心になれ」で各校での求心力になって新たなメンバーを巻き込んだのです。そして、巻き込まれた教員がまた「渦の中心」になって、新たな人を巻き込んで広がっていきました。

学校がフィロソフィをもつことの大切さ

金井 教員も生徒も多様化する現代の学校現場には、教員たちの実践の共通の拠り所となるフィロソフィが求められていると思います。では、学校長など管理職の先生方はどう考えられているのでしょうか？

川崎 管理職についてはフィロソフィを特に大切にしなければなりません。そもそも自分たちのフィロソフィが何なのかということを確認にして、教員がやろうとしていることを「学校のフィロソフィ」という物差しの上で考えて対話していく。そしてこれからの多様性が尊重される世の中では、フィロソフィに則って間違っていないのであれば、「やってみなさい」と言える力量を持たないといけない。

それは子どもたちに対しても同じです。「あなたがやろうとしていることは、利益だけを考えてやろうとしていることではないよ。そこを自省して大丈夫ならばやっ

小笹 大道

学校法人立命館 一貫教育部副部長

川崎 昭治

学校法人大阪初芝学園副理事長 稲盛経営哲学研究センター 研究員

金井 文宏

稲盛経営哲学研究センター 客員教授

てみなさい」と言える度量を教員は持たなければなりません。

稲盛哲学で言えば、「動機善なりや、私心なかりしか」です。自分の本当にやりたいという動機がどこから来ているかと問うてみる。これからの時代、自分たちがやるうとしていことがフィロソフィから外れていないかと自らに問いかけながら挑戦していく、そういう作業が必要になってきます。

金井 この研究会も各校のフィロソフィ案が完成し、一旦終了しています。先程、研究会自身が参加教員の対話を促し、成長する場となったことを評価されています。したが、今後の展開について、何かお考えでしょうか。

小笹 今回完成したフィロソフィは、あくまでも今回集まったメンバーが作ったもので、まだ学校全体のものになっていないんです。各校でそれをたたき台にしながら議論して、変化させていけばいいと思っています。すべての教職員が議論に関わっていくうちに、その教員たちにもフィロソフィが入って、共通言語になっていくと思います。

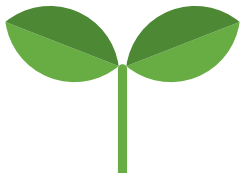
校内の同質の同士の会話だけだとうしても、あの先生は自分たちの考え方は違うというように、対立が起きていることもあるかと思えます。そこに、フィロソフィがあることにより「私はこの考え方に基づいてこのようにやっている」と上位となる「考え方」に依拠して実践することが出来るので、対立するのではなく調和していくものになります。

金井 共通のフィロソフィがあることで、対立が調和に変わり、互いに協力して成長できるということですね。

小笹 上位概念という感じでしょうか。以前は学校創始者の言葉といった上位概念や学校の成り立ちみたいなものを出してきて、教員の行動を振り返るというようなこともあったのかもしれませんが、今やそれは過去の話となっています。効率性を重視し、時間短縮が加速する中で、教員が自らを振り返り対話する場、あえてそういう場を設けてフィロソフィを作ることに意義があると思っています。

一方で、フィロソフィが出来上がったと安心してはいけないと思っています。フィロソフィが学校全体のものになった時に、「フィロソフィに従わなければならない」と組織が固くなってしまうのではなく、その後もフィロソフィを柔軟に見直していくことが重要です。そういう意味ではフィロソフィはいつも未完なのだと思います。

※京セラで教育部門を担い、稲盛経営哲学研究センターに向出されていた高津正紀教授。「新しい時代の学校研究会」を牽引する講師役を担ったが、2019年夏、北京大学出講中に逝去されました。



3年間の学びと取り組み

研究会のテーマ

「未来の生き方をCreateする学校作り」

研究会の目的

活動期間は3年間とし、学習・取り組み内容を以下のように設定した。

2019年度「人生哲学」

人生方程式、6つの精進、働き方、心を高める。

個人で、自分の人生哲学を生き方を高めていく時期とする。今の自分の教育活動をどのようにすれば子どもたちの生き方に影響を与えられるか。また自身の行動指針なども磨いていく。

2020年度「経営哲学」

JAL再生、意識改革、経営12カ条、リーダーシップ

組織をどう高めるかが課題である。所属する学年、分掌などリーダーとしてどのように組織をビルドアップしていくか、その方法を研究する。

2021年度「学校哲学」

各校におけるフィロソフィ作成

2年間の学習・実践を元に、立命館附属校各校におけるフィロソフィを策定する。

新しい時代の 学校経営 研究会

立命館附属校のフィロソフィ経営への挑戦 2022年度学校哲学研究会 Part 1



日時 2022年6月24日(金)
場所 立命館朱雀キャンパス

参加者

伊藤邦人

立命館小学校
(所在地から「長岡京」とも呼ぶ)

白井有紀

立命館宇治中学校・高等学校
酒井淳平

立命館守山中学校・高等学校
藤田翔平

立命館一貫教育部
小笹大道

稲盛経営哲学研究センター
川崎昭治


金井文宏(座談会進行)

谷口悦子(記録)

金井 フィロソフィで学校を運営していくことを学ぶこの研究会が立ち上がった、3年経ちました。京セラの教育部門を統括されてきた高津正紀氏が立命館大学の稲盛経営哲学研究センター客員教授として赴任されて、腰を据えて取り組んでみたいと言っていたのが、教育分野へのフィロソフィ経営の展開ということでした。立命館附属校の校長を歴任されていた稲盛研の川崎先生が一貫教育部の小笹先生とともに、高津先生を師として附属校5校の先生方に呼び掛けてこの研究会は2019年4月にスタートします。

最初に川崎先生から、立命館附属校がこの研究会で取り組んできたことに対しての思いを話してもらいます。

川崎 このフィロソフィに基づく学校経営の研究会を通して、参加者自身が成長しているのではないのかなという気がしています。この3年間取り組む中で、自分たちが教育とい



3年間、
フィロソフィを
言語化してきた。
次はそれをどう
実践していくのか

稲盛経営哲学
研究センター
川崎昭治

うものをどう考えて、どうしていくのがよいのかということを整理し直すことができました。それが今日来ているメンバーも含め20人を超える教員が3年にわたって、最初は高津さんの話を聞いたり、稲盛さんのビデオを見たりしながら、自分たち自身が考えている教育像というのは、正直まだおぼろげながらですが、つかみかけてきたところではないかな

と。それを言葉に表したらどうなるのかということ、言語化する作業を今回してきたところです。

次の課題としてはそれをどう実践していくのか。自分たちだけではなしに、それを学校の中にどう広げていくのかというのを考える段階じゃないかと考えています。

今日は3年間ここで学んできたことによって実際に生徒や教員と対応する時に、自分がどう変わって、現場にはどういふふう新しい波が起きているのかということを知りたいなと思っています。

金井 それでは、フィロソフィを各附属校で作りに上げてきたプロセスについて、立命館小学校からお願いします。



伊藤 立命館小学校では、「五つの誓い」というものを軸にして、教育活動

方、「はじめて立命館小学校で働く先生方」、「ミドルリーダーの先生方」と対象別に3つ作っています。ミドルリーダー向けのフィロソフィを作ったあと、3月の終わりに新しい学年主任6名が集まった時に、「こういうものを作ったので、こういう観点を大事にしながらぜひ学年をつくってほしい」と願いを込めてお話をしました。

例えば「率先垂範する」が一番来ていますけれども、自分たちから仕事を引き受けて、他の学年の先生のお手本となる、そういうところを大事にしてほしいと。それが2番の「信頼関係を築く」というところにながってくると思います。特に5番の「常に創造的な仕事をする」について、先ほど探究的な学びに力を入れてきているという話もしましたけ

れども、各学年がどういうテーマで探究活動をしていくかというところ軸に、今、話を進めています。そういうところで、これから新しいものをつくっていく空気が出来てきているかなと思いますし、それを学年主任が意識しているのではないかなと思っています。**金井** ありがとうございます。最初に小学校全体の先生方、新任の先

を行っています。「わたしたちは、かけがえない一人ひとりの生命を大切にします」という生命の尊重が最初であり、「言葉を大切に、心をみがいていきます」、「知りたいという気持ちを大切に、あらゆることから学び続けます」と続きます。本校は探究の学びに力を入れていきますけれども、こういうところが軸になってくるところかなと思います。次いで、

「たくましく生きていくために必要なのは『根っこ』をきたえます」とあり、学校教育なので、この先に続く12年の一貫教育のスタートとして、そういう「根っこ」を培うことによって今後の一貫教育に生きてくるのではないかといいことです。最後に「身につけた力を、進んで他の人に分かち伝えていきます」、自分の事だけではなくて、それをどういふうに貢献し

ていくのかとあって、「五つの誓い」になっています。それを踏まえて、「立命館小学校 フィロソフィ はじめに」というものがあり、立命館小のフィロソフィを掲げました。フィロソフィは「立命館小学校で働く全ての先生

立命館小学校の教育の根幹をなす「培根達支(ばいこんたっし)」の碑

Philosophy 立命館小学校の フィロソフィ

～立命館小学校で働く 全ての先生方～

～ミドルリーダーの先生方～

心を磨く

1. 感謝の気持ちをもつ
2. 高い目標をもつ
3. ベクトルを合わせる

よりよい仕事をする

4. 信頼関係を築く
5. 地味な努力を積み重ねる
6. 仕事を好きになる
7. 常に創造的な仕事をする

正しい判断をする

8. 利他の心を判断基準にする

新しいことを成し遂げる

9. もうダメだというときが仕事のはじまり
10. 信念を貫く

困難に打ち勝つ

11. 見えてくるまで考え抜く

人生を考える

12. 人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力
13. 夢を描く



Philosophy 立命館守山中学校・高等学校の フィロソフィ

自他の幸せのために行動する フィロソフィ実現のための行動指針

1. 主体的に行動する

- ① 人生の主人公は自分自身
- ② 対等な対話で「正解」をアップデートする

3. 感謝する

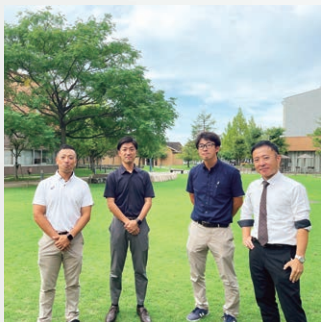
- ① 自他に誠実に
- ② 感謝が良い議論を生む

2. 挑戦する

- ① 失敗は挑戦した証
- ② 失敗は未来志向で対処(原因論ではなく目的論)

4. 前向き

- ① 未来を見る
- ② ワクワク・ドキドキを大事に
- ③ 比べるべきは過去の自分、未来の自分



藤田 昨年度末にできたフィロソフィから特に大きくは変わっていないです。そういう状態に至った経緯なども踏まえながらお話ししていこうかと思っています。
まず守山は長岡京だとか宇治、小学校と大きく異なるところが、公立高校が私学に変わったということです。そういったこともあって、守山が出来た頃は「立命館色をつくらな」ということがバックグラウンドにあったそうです。ということもあり、何かみんなの目には「ん」と飛び込むような立命館らしい言葉を共通言語として一切持っていないのです。逆に言うとなんにも縛られていない、ということ、この15年間、守山は他

立命館守山中学校・高等学校
藤田翔平
数々のチャレンジを支えてきた校風を言語化したフィロソフィ

の附属校に比べるとやりたいことがやれてきたのかなというところはあります。

多分どの附属校よりも何かすると決まったら、ボンと始められる。ICT教育がスタートした時もそうでしたし、そういった意味では伝統がないのが強いというところで、皆さん一人ひとりが主体的に行動できる集団であったなと自分たち自身、身をもって感じたところだったので、それを一つの項目に置かせていた

だきました。ただ、この「主体的に行動する」というところにも、自分自身が行動するという部分もあれば、お互いが主体的に行動できるために、対話をしながら自分たちのスキルアップというのが、アップデートをしていくことが守山には非常に多いのかなと。何かを始める時に、それに長けた先生が生まれてくる。みなさん意外と素直に「わからないのですが、どうしたらいいですか」とお互いに聞き合える文化というのが守山のいいところです。そういった文化が対教員だけではなく、生徒に対してでも出来つつあるかなと。そういったところで「対話」ということが大きな軸になっていて感じて、項目に置かせてもらっています。そして、15年間いろいろとチャレンジしてきたことがあるので、「挑戦する」を置いていきます。守山のスタート時は、「1万人の来場者を目

指せ、文化祭」という目標が掲げられました。生徒と教員で協力した結果5年目、6年目ぐらいで達成したのですかね。その後、それまで行事を重視していたのですが、「これからの時代の学校は「行事」だけではない。学力も必要だ。学力を身につけるためにはICTだ」ということで、ICT教育が始まりました。その時のミッションによって常に守山は挑戦し続けました。

挑戦を続けていると、当然失敗も出てくると思うのです。その時に「挑戦する」のところに書いていますが、読み上げます。「失敗は未来志向で対処する。原因論ではなく、目的論。『なんでこんなんしたの?』というお互いの叱責で終わるのではなく、何がしたかったのか、どうやりたかったのか、そもそもその目的はなんだったのかということ、明確に對話できるような集団でありたい」。それは生徒に対しても同じです。そういう気持ちでやってこれたのも守山の強みだと思ったので、書きました。

結局そうやってのびのびできたり自分たちが主体的に動けるのは、周りの協力があってたりするので、やっぱりそういう気持ちを忘れてはいけないということ、感謝するを置いていきます。

4番目は「前向き」ということで、「主体的に行動する」と「挑戦する」

にかぶるところがあると思うのですが、自分が学校を良くしていきたい、生徒を良くしていきたいと常に未来を見据えているのが理想の教員像だなと。そのためには自分がワクワクしたり、ドキドキしたりといったことを大切に、とりあえずやってみる。まわりもそれをやろうとしている人を否定することなく、チャレンジしてみようかというような集団になり得たらいいと。この「前向き」という柱の最後に、「比べるべきは過去の自分、未来の自分」と書かせてもらっています。守山もどんどんプロフェッショナルな先生が増えてきて、「あの先生はすごいな、それに比べて自分なんか」と落ち込んだり、自分に自信がもてない先生もいたりするのですが、大事なのは過去の自分よりもどれぐらい成長できたのかです。1日1日背伸びして成長していった、その自分の成長を実感することが大事だと思ったので置きました。

この4つの柱、細かいものを含めても9本しかありません。少ないのは少ないですが、この少なさでも僕たちがみなさんに「このフィロソフィを作りました」と言った時に、「何を君たち勝手に作ってるの?」ということが守山では起こりうるかなと。守山のいいところは「これだ」と腹を括ったら一気に進むのですが、反発も出るのが守山の特徴です。だっ

ても9本しかありません。少ないのは少ないですが、この少なさでも僕たちがみなさんに「このフィロソフィを作りました」と言った時に、「何を君たち勝手に作ってるの?」ということが守山では起こりうるかなと。守山のいいところは「これだ」と腹を括ったら一気に進むのですが、反発も出るのが守山の特徴です。だっ

フィロソフィは「挑戦し続ける」を軸に時代とともに育っていく



酒井 宇治のフィロソフィの説明をした後で、その後現場がどうなっているか話ができたらと思います。宇治のメンバーとしては、私、酒井と、熊谷、水口、高野という4人です。特徴的なのは、水口、高野は立命館宇治の初期の頃の卒業生なのです。熊谷は公立から宇治に来た教員です。私は長岡京の方に33歳までいましたので、正直、教員としての

土台は長岡京のものがあって、その後、横から見ていた宇治に途中から入って、今では宇治にいる方が長い、そういう立場です。

まず「忘れてはいけない原点・宇治のDNA」について、恐らくこのところは初期の卒業生の高野、水口、そして横から見ていた私の宇治に対するイメージと合致するかなと思います。我々4人で考えたこととして



教員の「対話」と「挑戦」が生徒のボランティア活動スタートのきっかけに。

は、宇治の核は「挑戦し続ける」というところにあるのではないかなというところで、それをもとにして3つの柱と具体的指針をこの図のようにまとめさせていただきました。

このフィロソフィは2021年度に当時の中堅教員4名が作成したのですが、「挑戦し続ける」という核の部分は今後宇治がどうなったとしても、守り続けていくものだと思います。しかし、具体的な項目はおそらく時代に合わせて若干の修正もあるのではないかなと。つまり、フィロソフィが育っていくかどうか、学校が育っていくかどうかではないかなと思いながら作っています。

フィロソフィをこれからどうしていくかということについては、熊谷、高野の2名は、現在、中学2年の学年主任、副主任ですので、学年方針作成時にこのフィロソフィを意識しました。

フィロソフィを作ったあと、我々としては事例をあげたいなと思ったのです。例えば、具体的指針で「チームの一員としての自覚」という項目があるのですが、「この先生のここはこうだったよ」とか、それぞれの教員の具体的な行動をもう少し集めることによって、より具体化したかと思っていいたのです。

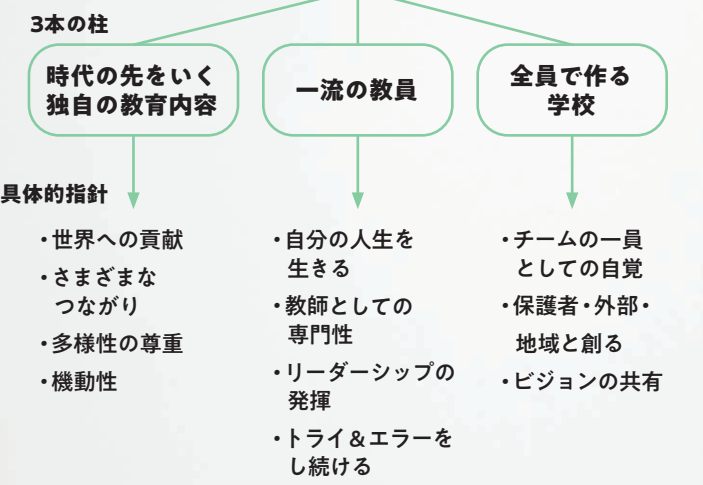
一方で管理職のメンバーが若干変わってききましたので、管理職の方にこれをみんなでもっていったら、どう

Philosophy

立命館宇治中学校・高等学校のフィロソフィ

～宇治で働く教職員が大切にしているフィロソフィ～

コア 挑戦し続ける宇治



扱うかはともかくとして、一度ちゃんと見せに行かなければいけないなとは話をしています。

今後若い先生方が入ってきた時に、「挑戦し続けるのがやっぱり宇治なんだ」ということは、受け継いでいく。挑戦しなくなると保守的にならたら宇治じゃないというか。そこは卒業生も教員として入ってきていますし、いろんな挑戦もしていますし、守り続けていくことができると思います。私と水口もこれを元にして、分掌部長として各部から挑戦していくところ。以上です。

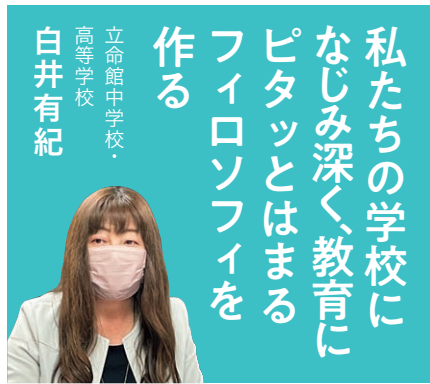
金井 フィロソフィを作った後、それぞれの先生の具体的な行動を積み重ねていって、肉付けしていくのかなと私も思いました。それはこれからでしょうか。

酒井 意外と教員はお互いの教育を



時代の先を行く独自の教育で、生徒の可能性を広げていく。

寝め合ったりする時間というのが意図しないかと取れなかったりするのです。A先生のこういう行動というのは結局トライ&エラーをすこいしてたとか、そういうことを言い合える場を作っていたらいいなと思っているのですが。



白井 ご存知の通り、本校は歴史と伝統があることよって、かえってこういうフィロソフィとか言う少し煙たがられるような校風があるのですね。外からのものに対して、なかなか自分たちですんなり受け入れられるものと受け入れられないものとがはっきりしているの、私たちがこのようなフィロソフィを作るといえるのはちょっとおこがましい感じ

で、なかなか…。稲盛哲学を勉強させてもらって、稲盛さんの生き方とか考え方とかに共感すること、本校でもできたらいいなということがいっぱいあるのですよね。でも、それを押しつけても絶対にうちの学校ではうまいこといかないというのは最初から思っています。でもずっとこの3年間、私たちの現場でどういったらうふうに稲盛さんの教えを実践に変えられるかなということを考えてきました。

私事なのですが、研究会がスタートした時はたしか学年主任だったんです。それが教頭になり、副校長になりました。その中で、若い先生がこれからの学校をどう作っていくのかという視点がかなり大事かなと思ったので、敢えて若い先生に入っていたらいいなと思っていました。若い先生と一緒にこれからの立命館をどういう形で作っていくかということを考えるよい機会をいただいたと思っています。その中で、立命館中高はみんなで一緒に頑張ろうという意識はありますけれども、フィロソフィとかを押し付けようとすると思いが来るとは思いました。

ただ、私たちが大事にしていることは言葉にはしていないけれども、みんなもっているな。けれどもそれを言語化するのには非常に難しいと思っていたのです。その時に川崎



フィロソフィ作成を通して、生徒との向き合い方が変わった。

もらったのですよね。この言葉を毎朝私たちは見通って学校に入るのです。だからこの言葉は私たちになじみ深いのですが、これはどういうことなのかということ、初めてうちに来られた先生方は実はあまり分かっておられないんですね。けれども「肌で感じる」、「先輩方から聞いて知っとけ」という感じが学校の校風なので、みんなそんなことをいちいち言わない。でも実際問題、働き方改革もあって雑談も減ってきて、先輩方もだんだん減っていく中で、新しく来られる皆さんの先生方は、本当にみんなこれを分かっているのかなと。私も含め、まだまだ自分に落としきれないんじゃないかなと思いました。それを少し自分たちに落とし込むために、さらに末川先生の言葉をたくさん調べたのです。大学にある碑であったり、いろいろあるのが分かったので、その中で私たちの学校になじみ深い、そして私たちの教育にピタッとはまるものをいくつか選ばせていただいて、今回フィロソフィという形で作らせていただきました。

これが今の段階で、実践としてはまだやりきれないのですが。新人研修というのをやっていますので、どこか時間をもらって、新人の方にフィロソフィを見ながら学校の話ができたかなと思っています。フィロソフィは「この先生だったら

こうされたな」とか、いろんな実践を頭に思い描きながら文章をつくったのです。実践に紐づいているので、将来的にはそういうその実践の根底にこのフィロソフィがあつて頑張れたのだというような形でもう少し分かりやすく示しながら、実践も含めてどこかで全教員で話ができたらいいなというふうには思っています。そこまで持つて行けるかどうか

らないですが、それを次の目標としています。

金井 若い先生方と一緒にこれに取り組んだと言われましたけれども、こういう考え方について、どういう受け止め方をされてましたか？

白井 メンバーの中野先生、原澤先生は立命では比較的新しい先生方です。学年集会などで「平和と民主主義を大事にしている学校としては

こうだろうか？」というような教職員が持つ共通の価値観を、先輩の先生が話すことを聞いたりしてわかっていただけども、実際にそれが自分たちの教育の指針になって自らの教育と照らし合わせたり、落とし込んだりするとところまではいっていません。たと思うのです。だから、フィロソフィを作る作業をしながら、「ああ、そういうことか」と「みたいな感じの気

1. 理想は高く、姿勢は低く
高い目標を持つ
つねに謙虚であれ
率先垂範

2. 大地に足を踏んまえて
命を立つる所以
もうダメだというときが
仕事のはじまり
真の勇気は場数を
経験して身に付く
生徒の変化を見落とさない

3. 一歩ずつ前へ前へと進もう
ベクトルを合わせる
地味な教育活動を積み重ねる
生徒たちと共に歩む
感動を創出する

づきが先生方にあったなということを感じました。そして、フレッシュだからこそ、こういった歴史と伝統だけではなく、肌で感じるだけではなく、みんながわかりやすく言語化していくことに抵抗なくできたのかなと思っています。

金井 ありがとうございます。ペテランの白井先生だからこそ、多くの現場の先生の実践を思い浮かべながらフィロソフィを作れたのだと思います。

白井 はい、それはもう数々の葛藤の中でやってきましたので。うまくいくことばかりではありませんでしたが。

川崎 小笹先生、今までの皆さんの発表を聞いてどうでしょうか？

小笹 まず、研究会を3年やってきて、あらためて振り返って、やって良かったなと思っています。始めるにあたってそれぞれの先生に、「一緒にやりませんか」と声をかけさせていただきました。僕の一番の成果はそこだなと改めて思います。あの時にメンバーに声をかけたのがすべて始まりだったなと。きつというんなご苦労をされたのだと思います。今日お話しいただいたのはほんの最後の部分で、それまでに本当に大変なことがいろいろあって。多分学校でも喧々諤々いろいろなことがあったと思います。でも、それに屈せず最後までこうやってやり通し

て、それで今日があると思っています。そういう心ある先生に最初に集まっていたのだというのがすべてかなと思っています。

このフィロソフィというのが本当に核になるものだと改めて感じています。どの先生も大切にされているのは、どの先生にもこれがフィットするように、なじむように言葉を選んでいただいていることです。なぜそれをつくるのか。僕はこれが求心力になるのだと思っています。例えば学校によっていろんなコースに分かれたり、多様性でいろんなことが入ってきたりしています。いろんなことが枝の部分で行われているけれども、その幹になる、一番コアになるものがこのフィロソフィになるのだと思う。だからこそ先生方はみんなで作りたい、みんなの言葉で作ってそのコアの部分を大切にしたい。そしてみんながそこに紐づいていろいろな活動をしている。そういったことが行われるようなフィロソフィを本当にみなさんが作られてきたのだなと思つて嬉しく思っております。

金井 ありがとうございます。ここまで各校のフィロソフィの取り組みを聞いてきたのですが、先生方の個々の実践の中でフィロソフィを軸に何か取り組みを自分でしてみた、周りと一緒にしてみた、これはフィロソフィの成果かなということ、何かありますでしょうか。

藤田 学校としては何もお金は出していないので、NPO的にやっていると思うんですけど、部活指導や進路指導でもそうなんですけれど、担任の先生が30人、40人を受け持っていて、一人ひとり面談をするのは大変なので、例えば進路指導に長けた大学生や地域の方々にも入っていただいて、メンターのなことをしてもらおう。それを目指して今、そういう人材を育てるためにだと思っております。高校生の中には附属中学校に行つて、高校はコースが3つあるので、それを選択するためにどういうアドバイスをしていったらいいか、中学生に面談したいという子もいます。そういう熱量はすごいものがあります。いろいろな高校生たちが自分が興味ある分野を調べてみるとか講演してみるということをやり始めています。

金井 私も守山にはベンチャー的なことをする生徒が出てきていると聞くことがあるんですけど、熱い。それは3年生の学年団の先生が最初に火をつけたんですか？

藤田 うちの高3に関してはそうだと思います。というのと、学校がやるうとして探している活動の土台とミックスしたんじゃないかなと。

フィロソフィが腹落ちし、真の意味で理解できるとは？

立命館小学校
伊藤邦人



伊藤 小学校では、フィロソフィをミドルリーダーの学年主任の先生方に見ていただきました。

フィロソフィの言葉は美しいと思うんですが、腹落ちすることが難しいです。フィロソフィとの距離は先生方によって違うかもしれません。

もう少し言えば、子どもには「提出物の期限をちゃんと守りなさい」とか、「挨拶しなさい」、「時間を守りなさい」と言いますが、自分は全部できるかということそれはなかなか難しいです。

本当に自分にも他者にも愛情を持った厳しさ、いい意味で厳しさを持つというのは難しいことなんだなと思います。本当の意味での難しさが分かってる人は多分、フィロソフィの意味も真の意味で理解できるんじゃないかなと。

金井 フィロソフィを作つて実践することを自分事にしていくということですね。ありがとうございます。

金井 実は5年ぐらいい前に守山でJAL改革をテーマとした働き方の授業をさせていただいた時があったんですけど、JALでこんなことをやっているんだということを中心の子たちに具体的にいろいろと話をしたんです。最後に、「JALにはフィロソフィが40あるんだけど、この中で一番自分の気持ちにフィットするのはどれか」と聞いた時に、「昨日よりは今日、今日よりは明日」、「地味な努力を積み重ねる」と答えた生徒が多かったです。それをJALの方にお伝えしたところ、若手のCAさんが好きなフィロソフィだと言われました。

白井 フレッシュなんです。金井 そうなんです。だから、「中1の子がこの学校に入って、自分を成長させようというので選んでいるから、とてもいいんじゃないですか」と言ってくれて。あと、「本音でぶつかれ」を気に入っていた子も多かったです。

前を向く教員の実践を後押しする行動指針としてのフィロソフィ

稲盛経営哲学
研究センター
金井文宏



守山は、自由に新しいことに挑戦できるのが核のような学校だと思つてすけれども、先生方はこのフィロソフィに結集できそうですか。

藤田 できるんじゃないかなと思います。今回のフィロソフィ作成を通して、守山がこれまで大事にしてきた言葉になっていないことが、言語化しつつあるのかなと。今後それが先生方に腹落ちしていつて、フィロソフィ策定の成果が見えるようになるんじゃないかなと考えています。

金井 期待できそうですね。

挑戦と対話が生徒の起業や学校運営への参加につながる

立命館守山中学校・高等学校
藤田翔平



藤田 実践について成果を少しずつ感じることがあります。

一緒にこのフィロソフィを作ったメンバーに、自分自身が所属している学年の主任、辻先生が入つてくれます。今、高3を担当されていますけれど、この3年間でずっと言っていたのは、「対話」と「挑戦」です。特に

谷口 すごく中学生は真面目でしたよね。「地味な努力を積み重ねる」を選んだ子がいて、選んだ理由を聞いたら、「部活でもっとうまくなりたいから」と答えてくれました。

金井 もう少し実践に落とし込んだ日々の心がけみたいなものがあった方がいいのかもしれないですね。JALもフィロソフィ教育を設計する時に、「あまりにもすごい実践事例を見せたら誰もできなくなる」と機長出身の教育担当の社員が提言して、半歩先を行く特に若手の実践も映像教材として多く共有したのがよかったと言われていました。腹落ちするためにはフィロソフィの方からも近寄って来ないといけないかもしれません。

伊藤 かみ砕いたものを。

金井 良く見れば、JALフィロソフィの中にも「今からやってみよう」と思つてできそうなものがあるんですよ。

川崎 いつも言っているのですけれど、日めくりカレンダーのようにたくさんある方がいい。自分に今フィットするのがどれかというのがあると思うのです。それをあまりにも形にしてまとめ過ぎると、今現実自分が必要としている、ほしい言葉がないということになる。だからフィロソフィに向き合うことは、日めくりカレンダーのいろいろな言葉がある中で「今、自分はこの言葉が

ほしかったんだ」というものを見つけ
る作業なんじゃないのかなと。

ほしいのは、まとまりすぎないこと。
まとまりすぎたものを子供に押しつ
けると、押しつけ感が出てしまう。
「この中で今の君にフィットするもの
はどれなのか?」というぐらゐの項目
が必要じゃないのかなと。一番まと
められているのは、昔の校訓なん
です。例えば「質実剛健」。「これをも
って学校を運営していく」と言われ
ても、「それなんなんだ?」となります。
たくさん、いろんな形でフィロソ
フィがあることが大事です。私が聖
書のいいと思ってるのも、「ヨハネ
の第〇章を開けて見なさい」と言わ
れたときに、それが今の自分ではな
いかもしれないけれど、忘れていた
言葉があったりするからです。先程、
谷口さんが言われたようにJALの
フィロソフィを生徒に見せて、どれ
が今の自分にしっくりくるかとい
うようなことを常に考えさせてとい
うことが大事なんじゃないかなと思
います。

金井 JALの部長クラスとなると
「楽観的に構想し、悲観的に計画し、
楽観的に実行する」というような
フィロソフィを選ぶことがあります。
最初に私が腹落ちしたフィロソフィ
です。一方、「人間として何が正しい
かで判断する」というやはり管理職
クラスの方が大切にしているフィロ

ソフィで、これを重要な判断をする
際に思いだしますが、私も取り組み
途上です。

川崎 先程の「高い目標をもつ」はも
のすごく大事なことでというの
いつも思っているんです。稲盛さん
もおっしゃっているんですけども、
エベレストに登る時に準備するもの
と、愛宕山に登るときに準備するもの
とは違うでしょうと。本当に高い
目標をもつということは、そこに登
る覚悟が必要なんだ。そこに何を準
備しなければならぬのかというこ
とを真剣に考えないと、高い山には
登れない。手ごろな山だったらすぐ
登れると思うから、何ら新しいもの
を生み出さない。だから高い目標を
もつということは、本当にエベレス
トに登るといふ覚悟と、時間をかけ
て体や物を準備することが必要。そ
ういうところに高い目標をもつとい
う意味があるということ、抱き
合せて考える必要があります。

金井 京セラでもJALでも経営の
トップが最もフィロソフィの血肉化を
求められています。JALでは月に
1度、経営幹部が集まり経営判断を
どのフィロソフィで行ったのかを共有
する勉強会があります。トップに近
ければ近いほど回数を重ねてフィロ
ソフィの実践について勉強することに
より、より高みを目指して、「エベレ
ストに登る」ためにフィロソフィを血
肉化するということだと思います。

います。それがやはりこの研究会に
入らせていただいた大きな財産だ
というのを感じています。

金井 この研究会に参加されていた
メンバーの先生自体の行動が変容し、
白井先生ご自身もこの会を通して成
長していくエネルギーにしておられ
たということですね。

白井 先生方は大きく変わっていき
ました。教員会議で発言するのが怖
くてできないと言っていたのにしっ
かり自分の意見を言うようになった
り、しんどいときこそ、こつこつと
あきらめずにやり切るようになった
り。その姿を見て、根底にフィロソ
フィが流れている気がしました。
金井 ありがとうございます。最
後に小笹先生にまとめていただいた
もよろしいでしょうか。

それでは酒井先生どうでしょう
か? 宇治で何かフィロソフィの実
践について話していただけますか?



自然と フィロソフィが 共通言語に なってきた

立命館宇治中学校
高等学校
酒井淳平

酒井 一緒にいるメンバーで話す時
は自然とフィロソフィが共通言語に
なりますね。例えば、つい先日の情
報交換会で水口先生と一緒に話した
んですけど、相手の方に「なんで宇
治ってそうなのですか?」というよ
うなことを言われたときに、水口先
生がフィロソフィにあるような言葉
で「昔からそうなのですよ」と自然と
言ったり、熊谷先生が学年を運営す
る上で、自然とそういう言葉を使わ
れたりするので、フィロソフィは共
通言語になるのだなとすごく感じて
いるのです。

自分自身はあまり実践できてい
る実感はないのですが、挑戦
をするサポートはできるだけした
いなと思っています。やろうとし
ている若い先生方ができる環境に

することは自分にも少しはでき
ると思っています。

自分の意識としてはミスをしない
ための主張と、挑戦するための主張
があると思えば、絶対後者を応援し
ようと思います。フィロソフィの存
在で、よりその基準が明確になっ
たかなと。

フィロソフィは、多くなればなる
ほど覚えきれなくなる反面、たくさ
んあった方が自分の行動に当てはま
るんですよ。そのことはすごく実
感しています。また、「私もこれぐ
らあったらできる」と思ってもらえる
ように、今作っているフィロソフィ
にあてはまる行動を集められればと
考えています。

金井 ありがとうございます。フィ
ロソフィは自分を後押しする行動
の指針になるということ、共通言
語となって教員のコミュニケーション
をよくするということが、これらが
フィロソフィ経営の基本なのだと思
います。そして若手から経営を担
うミドルリーダーやトップ層に行く
ほど「高い目標」をもち、フィロソ
フィを血肉化して日々実践するとい
うことが求められているのだと思
います。

最後に白井先生、フィロソフィを
作って教育実践が変わったとい
うことはありませんか?

小笹 3年間やってきて、フィロソ
フィっていつまでたっても到達で
きないものなのだなと思っていま
す。例えば「高い目標をもつ」とい
っても、高いといってもどこが高いの
か。目標を達成した、しないとかも
あると思うのです。稲盛哲学に挙げ
られているものは抽象的なものが多
くて。だからいつまでもゴールがな
いというか。目指すべき価値とい
うか、そういうものも偏らずいろいろ
たくさんある。なので、稲盛さんの
「物心両面にわたる自他ともの幸せ」
というのがあると思うのですけれど
も、それができるといふのはこうい
う皆さんの価値、フィロソフィが
あるから出来るのではないかなと。
これが達成して〇になるとか×にな
るとか、×の人はダメなのか、アイ
ツはいい悪いとか、そういう世界の
話ではなくて、皆が目指せること
ろ、皆が大切にできたり、心の拠り
所となるのが、このフィロソフィな
んじゃないのかなと私自身は感じて
いるし、各学校でもそんなフィロソ
フィになってほしいなと思っ
ています。

個人的には、「宇宙の意志と調和
する」というのが崇高で、ものすこ
く大きいことだなと感じています。
全然理解できていないのですけれど
も。「リーダーは孤独である」ってよ
く言うじゃないですか。稲盛さんも
そうで、ずっとリーダーでおられて

フィロソフィを 作ることで 教員の行動変容に つながった

立命館中学校
高等学校
白井有紀



白井 先生方のお話を聞いて考えて
いたのですけれども、やっぱり私も
含めメンバーの先生方も自分たちが
変容したというのが一番大きいので
はないかと実は思っています。先生
方はすごく成長して、実践してい
るなという場面をよく見かけるよう
になりました。やっぱりこのフィロソ
フィを作ること自体が教員の行動変
容につながっていたのだなとつくづ
く感じています。

私事ですが、地道なことをやれて
いなかったのではないかなと思っ
て、ここ2年間毎日校門の前に立っ
て、生徒に挨拶し続けています。生徒の
変化を見落とさない、担任じゃなく
ても私は生徒の変化を見つけれら
れると思つて。毎日生徒の顔色を見なが
ら、気になる子には声をかけて、と
ても気になる子は写真を見てすぐ
に学年主任や担任に伝えてい
ます。そして、ここに書かせてもら
うて、ここをいくつかは日々実践し

皆が目指し 大切にできる、 心の拠り所と なるのが このフィロソフィ

立命館一貫教育部
小笹大道



最終的に稲盛さんが対話されたの
で結局宇宙とか、自分の存在意義
とか、人間とは…とかそんなこと
対話をされていたのではないかな
と思っますね。普通は身近な先輩
と対話したり、社長がいて社長と対
話したりとかしていくのですけれど
も、トップになった人が対話する
時ってそういう次元の世界に行くの
ではないかなと。なので、こういう
言葉があるのではないかなと。京セ
ラフィロソフィの中でも比較的早く
出てきますよね。この「宇宙の意志
と調和する」というのが、人間とは
いかなる生き物かということを問
うているような、そんなことを感じ
させられます。我々人間が目指すべ
きところは何処なのかなということ
を、このフィロソフィというものが物
語っているのかなというふうに感
じて、この会もそんなことを少しも
目指していけたら。最終的には「み
んなの幸せ」というのがキーワード
になっていけたらなと思つて取り組
んできました。

金井 「宇宙の意志と調和する」、そ
して「みんなの幸せ」と最高のま
めをしていただきました。今日は
皆さん、どうもありがとうございます。

立命館附属校のフィロソフィ経営への挑戦

2022年度学校哲学研究会 Part 2

日時 2022年6月27日(月)

場所 立命館慶祥中学校・高等学校

参加者

立命館慶祥中学校・高等学校

山口太一

内山閣人

岩倉衣梨奈

立命館一貫教育部

小笹大道

稲盛経営哲学研究センター

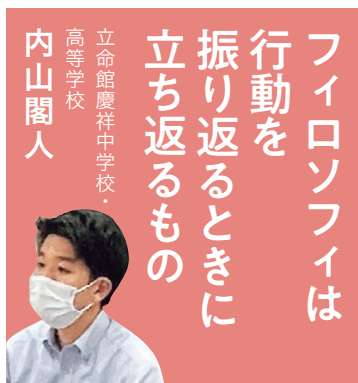
川崎昭治

金井文宏

(座談会進行)

谷口悦子

(記録)



考えています。

金井 フィロソフィを自分の行動指針とすることに、ある程度馴染まれましたか？

内山 個人的にはすごく馴染みました。先日のイベントでいろいろなレギュラーが起こり、今日の会議でも話題になりました。今日この研究会もありますから改めてフィロソフィを見返すと、第10条に今の私たちにぴったり当てはまるようなことがしっかりと書かれていたりするわけです。こういう点で私にとつて馴染むもので、「なるほど、確かにここで作られたフィロソフィは行動を振り返るときに立ち返るものである」ということを実感しています。

金井 第10条というのはどのようなフィロソフィなのでしょう？

内山 「目標を共有し、反省のある毎日を送る」です。床に就く時に一日を振り返って反省することを前からやっていることもあって、第10条は個人的には好きなフィロソフィの条項です。
金井 ありがとうございます。では

という事が非常に励みであり支えでもありました。今でも仕事が終わって来て、慌てて焦って仕事をしているなど思う時など、稲盛さんの本を開く時もあります。「こんな事も勉強したんだっ」と、「こういう心意気や気持ちで仕事をしなきゃ」というのを思い出して、すごく元気が出るんです。そういう意味ではフィロソフィというものがすごく励みになって支えになっているなと思います。

金井 学年主任は先生方の方向を判断する重要なお立場だと思います。そこでこのフィロソフィは力強く先生方に語れるようなコンテンツになるという事ですね。

山口 それと判断してどちらも正しいということもあると思うんです。どちらかに決めなければいけない時に、自分自身が確固たるフィロソフィを持つことによって自分の判断に説得力が出せるんじゃないかと。

少し言い方が変かもしれないんですけど、やっぱり襟を正して仕事と向き合う事は、判断をしていく側の人間の必須条件なんじゃないかなと思っています。

金井 どうもありがとうございます。川崎先生、先生方のフィロソフィに対する取り組み方にどんな感想を持たれましたか？

川崎 フィロソフィで使っている言葉

フィロソフィをまとめられた山口先生、ご自身の関わりを話してもらえますか？

山口 フィロソフィとの関わりは2点かなと思っています。1つは自分が仕事をしていく上での方向づけ、羅針盤にしているものだという事です。

この研究会が始まった時は学年主任として5年目位でした。自分の部署の事はもちろん、それ以外の事でも判断や意見を求められる事が非常に多くなって、自分が何を抛り所にして考えていこうかとモヤモヤしていた時に「動機善なりや、私心なかりしか」というフィロソフィとの出会いがあった。もう一つは、自分の中の励みですね。

金井 「励み」について、少し詳しく教えてくださいませんか？

山口 30代半ば位の時、稲盛さんの仕事に対する考え方や働き方に非常に共感出来ました。自分だけが頑張っているような錯覚に陥っている迷いの時期でもあり、そのような中で稲盛さんのような先達がいるんだ

のすごく大事だと思っています。同じ言葉を同じようにお互いが言う事によって、深く言わなくてもそれで通用する間柄になっていく。それが出来ている組織は、問題が出て来た時にフィロソフィのワンフレーズだけで次にどうしようかという、互いの話の共通点が出来上がっていく。フィロソフィというのはそういう道具を得る事だと思っています。

創立当時に 立ち戻りつつ、 未来を考えて フィロソフィを作る



立命館慶祥中学校・高等学校
山口太一
金井 山口先生は今春から副校長をされていますが、学校全体を統括していくお立場で、学校経営にこのフィロソフィを導入しようとお考えですか？

山口 学校の経営方針を作るのが副校長の最初の仕事になります。経営方針の表紙は立命館大学慶祥高校と言われていたまだ中学もない時の第一期生の入学式の写真でした。まさに原点を確認しようということから経営方針の作成が始まりました。議

Philosophy

立命館慶祥中学校・高等学校の フィロソフィ

慶祥哲学 立命館慶祥 働く者たちの羅針盤

- 第1条 「忘れてはいけない原点がある」
- 第2条 「世の中の原理原則と、学校の原点を判断基準に」
- 第3条 「1人1人がオーナーシップを持つ」
- 第4条 「私学は家族です」
- 第5条 「顧客第一主義に徹する 小善は大悪に似たり」
- 第6条 「仕事を通じて心を磨く」
- 第7条 「壮大な夢を描く フルスイングしないものはホームランが打てない」
- 第8条 「自分で考え、自分で創る」
- 第9条 「対話による合意形成を忘れない」
- 第10条 「目標を共有し、反省のある毎日を送る」
- 第11条 「心あるリーダーが組織を動かす」
- 第12条 「真心が発揮される職場」
- 第13条 「同僚を育てる」
- 第14条 「互いに尊敬しあう職場であり続ける」
- 第15条 「この場所で働くことが 幸せにつながる」

2022年度学校方針



論を経て「われわれの原点には挑戦」という挑み続ける姿がある」ということが明確になりましたので、表紙の下に大きく「挑戦」という言葉を入れてあるんです。

金井 一期生の写真を掘り起こして学校創立の頃の思いを発掘されたという事ですね。

山口 当時のアルバムなどにあった文言を見ていくと、「北海道に新しい風が巻き起こった時」と書いてありました。「新しい風を巻き起こし続ける」のが、まさに私たちの原点であり意義なんじゃないかという事からスタートしました。

そこから現在の学園ビジョン「立命館学園の挑戦をもっと自由に」に入り、慶祥の教育の目的と目標の整理のようなことを方針の中に入れていきます。次年度以降もこの研究会で学んだ事をうまく織り込んで行きたいと思っています。

それから今、僕たちがどういう学びを提供していかなければいけないか、立命館慶祥モデルの学びは何なのかという点は、今回の方針はた



コロナ禍での異学年交流のため、寮務部教員が「名刺交換」を企画

き台で、今後職場で議論して固めていこうかなという所です。

これまで、目的などがあいまいのまま継続している事が結構ありま

た。目的・目標・意義を、何のために、誰のためにやっているのかというのをちゃんと考えて方針を立てました。それがないと、結局振り返りや反省も出来ない。何となく1年が進んで、そしてまた春になって1年が始まってしまっている。それがここ数年あったので、その辺りをちょっと交通整理したいなと思っています。

金井 フィロソフィの体系の下に先生方の行動指針みたいなものがあって、それに照らし合わせながら自分達の学校運営が位置づけられていくという形を目標にされている？

山口 そうですね。

内山 私達は平場で働いていて、ここ数年学校の目指す姿をつかめずにはいました。山口先生が副校長になられて、方針や慶祥が目指す学習モデルについて明確に文言にして整理し、現場に示して下さいました。

金井 創立当時までさかのぼり、フィロソフィや経営方針を作り、現在のあいまいな所をフィロソフィに照らし合わせて未来を考えるとどうようにされたのですか？

山口 原点をちゃんと意識するというのは、この研究会での学びの成果だと思っています。迷った時にどこに還るのかというのをちゃんと持っているという事です。

入試部員はいろいろな方と直接関わる機会が多い立場にいます。そこで「慶祥人としてどうあるべきか」ということを都度確認する機会を設けながら、実践に移して行けたらと思います。もう一つは同世代のネットワークを広げること。草の根でも同じ志を持つ人達と少しずつチームを作って行きたいです。

内山 私が先頭に立って、少しずつフィロソフィを入試部員中心に広めて行きたいなと思います。

入試部員はいろいろな方と直接関わる機会が多い立場にいます。そこで「慶祥人としてどうあるべきか」ということを都度確認する機会を設けながら、実践に移して行けたらと思います。もう一つは同世代のネットワークを広げること。草の根でも同じ志を持つ人達と少しずつチームを作って行きたいです。

金井 ありがとうございます。では最後に岩倉先生、お願いします。

岩倉 私は何年間も一緒に働く先生方との関わりを大事にしたいと思っています。

働き方改革が始まってゆっくり雑談する時間がなかなか持てなくなつて、先生方が抱える悩みや、逆にうまくいっていることの共有が難しいのが現状かと思っています。思いやりや真心が感じられる職場で、ともに一緒に学び合い、尊敬し合えるつながりを持って働いて行きたいというのが、今一番関心のある所です。

金井 ありがとうございます。志のある教員が行動指針としてのフィロソフィを共有し、一緒に語り合い、実践していく場を大切にしたいという事です。川崎先生、小笹先生にまともをお願いしたいと思います。まず川崎先生から。

続いて、岩倉先生、フィロソフィと自身の教育実践との関わりについて話してもらっていいですか？

岩倉 一番感じているのは教科の授業実践のところ。今年、慶祥が附属校サミット当番校になったことをきっかけに、教科全体が一体となり、6年間を通して子どもたちにどういう力をつけて行きたいのかという方針を持ち、「慶祥国語科の教育」というのはこれだと言えらるものを作ること意識してきました。学校方針でも「教科の3年間や6年間や1年間を見通した教育を進めていきましょう」という方向性が示されそれに結びつけて実践していくという事で、すごく動きやすくなったと思っています。

あとは1年生が今年新カリキュラムになって、国語も「国語総合」から「現代の国語」と「言語文化」に分かれ、いろいろと挑戦できるような学年に配属してもらうことができました。今、生徒の学びが広がっていくカリキュラム、単元づくりに取り

組んでいるところです。**金井** 教育課程が変わったことを契機に、原理原則というか立ち返る所を明確にする？

岩倉 はい、方針が自分の実践などと結びつけやすく設定してもらってすごく考えやすいし、方針を意識しながら、授業や単元をつくれるのはすごくいいなと思いつながら進めています。**金井** 先生方のお話をお聞きして驚いているのは、教科教育の所までこのフィロソフィが下りて来ていることです。**岩倉** 私は、若い先生がとて多くて機動力のある寮務部という分掌に入れてもらっています。寮でのイベントを企画したり、寮生会の動きを考えたしながら先生方とチームで行う寮運営も、フィロソフィに関わることかなと思っています。**金井** フィロソフィでコミュニケーションしやすくなり、思いと実践の共有に向かってチームがまとめやすくなったということですね。

立命館慶祥中学校・高等学校
岩倉衣梨奈

教科教育の所までこのフィロソフィが下りて来ている

稲盛経営哲学 研究センター
川崎昭治

フィロソフィに「ざわつき」を入れ、項目も多くする

稲盛経営哲学 研究センター
金井文宏

フィロソフィを受け止めて担っていく人が集まる場を！

立命館一貫教育部
小笹大道

フィロソフィはずっと追い求めて行くものであり変化し続ける

川崎 共通言語を持つ事によって、自分達のコミュニティに一体感を持たせる。人間というのは社会を作る事によって発展して来たので、そういう中でつながっている感をつくる事によって幸せを実感し、安心感を得ます。ただ、それによって幸せな職場にいななと思つた時に失敗が起ころのだと思う。

私は宗教と哲学の違いは何かなともいつも思うようにしていて、宗教というのは安心感を与えるために存在するのに対して、フィロソフィ、いわゆる哲学というのはその安心感にざわつきを入れないといけないと思います。そのざわつきをどう入れて行くかという事がフィロソフィを作っていく時に大きい部分で、私が不安になるのは、フィロソフィの項目が少なことです。少ない項目でみんな一緒にやろうと考えると、宗教になつてしまふ危険性があるなと、それをどうするかという事が次にやらなければならぬ事です。

金井 ありがとうございます。宗教

と哲学の違いというかなり大きな、深い問題提起をしてもらいました。それでは小笹先生、最後のまともをお願いします。

小笹 フィロソフィはたくさんある事によって、自分はこのフィロソフィには賛同できないけど、このフィロソフィについて自分はこう思っている。いろんな種類のフィロソフィがあるというのは、ある意味人間の言語という所から見ても重要なんじゃないかなと思っています。

研究会が終わり、これで一回一区切りが付きましたが、これが完成形かという言葉は一生完成がないんですよね。ずっと追いつめて行くものであり変化し続ける。時代の流れの中でこの一つの学校の中で、どんな風がこの言葉が変化していくのか。メンバーが変われば当然言葉が変わってくる事もあるし、それを許容できるというか柔軟に対応出来る行くという事が本質的な強さになるんじゃないかなと思います。

京セラ、KDDI、JALグループをフィロソフィ経営で率い、盛和塾塾長として中小企業経営者を育ててきた稲盛和夫氏。経営者や社員のみならずが稲盛哲学をどのように咀嚼し、自分のものとしてしているのか、仕事での実践に基づいたお話を伺うこのシリーズ。今回の「新しい時代の学校教育研究会」を主宰した立命館のお二方に「マイ・フィロソフィ」をお聞きしました。

カラーで見える

マイ・フィロソフィ

学校法人大阪初芝学園副理事長／立命館大学稲盛経営哲学研究センター研究員

川崎昭治さん



「カラーで見える」、京セラの稲盛名誉会長のことはである。「同じ夢を追求し続けていると、その夢はどんどん鮮明で、細かいとこまでわかるようになり、ついにはカラーで見えるようになります。」「それがビジョンです。そういう心理状態になった時、私は自分のビジョンが実現することがわかるのです。」と語っている。夢や目標をいつも実現できるとできない人の違いは、その夢や目標をどれだけ真剣に追求し続けているか、生半可な追求ではなく、その夢がカラーで見えるまで追及しているかどうかの差である。それは稲盛さんの次の言葉にも繋がっていく。「人間の能力は未来進行形で発展します」「努力を重ね勉強をすれば必ず成長する」「人間の能力は未来に向かって限りなく伸びて

いく可能 性を持って いる」とも述べている。思いを持ち追及を止めなければ、遠吠えのような音にしか聞こえなかった夢も、自らの能力の発展とともに白黒画像になりカラー映像、4K・8Kとより鮮明なものとなってくるに違いない。さらにこういう話もされている。「素晴らしいチャンスは、ごく平凡な情景の中に隠れている」「しかし、それは強烈な目的意識を持った人の目しか映らないものだ」と。結局成功への近道はなく、夢や目標に対し真摯に立ち向かい、どれだけ情熱を持って愚直に追求し続けたか、そういう努力をした人の前にこそ成功への道が開かれていくのだろう。まさにカラーで見えるまで悩み考え続けなければならないのだ。

「宇宙の意志」と調和する心

マイ・フィロソフィ

学校法人立命館一貫教育部 副部長

小笹大道さん



フィロソフィはゴールではなく、方向性を示す羅針盤のようなものである。そしてその極みが京セラフィロソフィの「一番目にある『宇宙の意志』と調和する心」だと感じる。松下幸之助翁は、「宇宙に存在するすべてのものは、つねに生成し、たえず発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である」と述べ、生物学的人間教育論を提唱した九州大学名誉教授の故・井口潔氏は、「人間とはいかなる生き物か」を問う必要があると述べた。宇宙の中で生まれた人間という生物がどのように、進化し、生成発展をしてきたのか。その人間が集まった社会で、経営や教育が行われる。

欲にまみれそうなる人間社会と、形而上にある超自然的なものとの間で葛藤した。稲盛哲学もその葛藤の中で生まれたのではないかと感じている。稲盛ライブラーには「生命の実相」(谷口雅春・著)が飾られている。また郷中教育が稲盛氏に大きな影響を与えているとも言われている。そういう考えが羅針盤のど真ん中にあるからこそ、その他のフィロソフィも生きてくるのだろう。「動機善なりや、私心なかりしか」も私の好きなフィロソフィであるが、凡人の私にも伝わるように表現したのがこの言葉なのだと思われている。フィロソフィの文字面に引く張られるのではなく、原点である「宇宙の意志」と調和することを常に大切にしたいと思っている。

編集後記 | 稲盛和夫氏のご逝去の報道を本号印刷の直前に知りました。急ぎよRITA編集会議を開き、本誌の冒頭に京都市立桃山中学校での稲盛氏の講演「君の思いは必ず実現する」(「RITA」13号から抜粋)を掲載しました。稲盛和夫名誉センター長は、常に日本の子どもたちに人生の未来を切り開く力を届けようと心を向けられていました。これまでの私たちへのご支援に心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。 金井文宏

RITA LABO は、稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

利他ラボ RITA LABO <http://www.ritalabo.jp>

